

東交交第97号  
令和3年2月26日

大槌町地域公共交通会議 会長 殿

東北運輸局長  
(公印省略)

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について

標記について、東北運輸局において二次評価を実施したので、別添のとおり二次評価結果を通知します。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年1月18日

協議会名: 大槌町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等 ②事業概要	改善事業の概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大槌地域振興株式会社  ・金沢赤浜線 ・小鎚浪板線	・自治体広報等による利用促進を図る。  ・応急仮設住宅の廃止や利用状況の推移に伴い、運行経路や便数の見直しを検討する。	令和2年度新規事業のため、前回事業評価なし。	A 計画に位置付けられたとおり、適切に実施された	【目標値】 ①町民バス(路線バス)の収支率を25%以上 ②町民バス(路線バス)の利用者数を年間延べ35,000人以上 ※事業期間が半年間であるため、目標値を70,000人(年間)から、35,000人とした。 【実績値】 ①17.27% ②17,398人(半年間) 【達成率】 ①達成率 69% ②達成率49.7%  昨年の実証運行実績と比べ、収支率、利用者数共に、大幅な減少は、新型コロナウイルスの影響による外出自粛等の影響が大きいと推測する。また、町内の人口減少や少子高齢化も要因と推測する。	町民生活は、復興事業等に伴い、新たに造成した団地や恒久的な住宅への移転など、環境の変化は大きく、新しいまちの形に合わせた地域公共交通ネットワークと持続可能な運行の再構築が課題となっている。 大槌町公共交通時刻表作成事業については、令和2年12月16日からのダイヤ改正に向けて、運行事業者との協議や町内公共交通事業者間のワーキング等を主に行った。 令和2年度事業で運行していた全系統を令和2年12月16日に再編成を行い「金沢赤浜線」と「小鎚浪板線」を統合した「金沢小鎚線」の新設と、令和3年事業年度より実証運行から新たに本格運行開始したフィーダー系統「循環線」の利用促進に向けて取り組む。 新しいまちの形に合わせた新しい暮らしの足として、住民の暮らしを支える持続可能な公共交通の存続と、効率的な公共交通体系の構築のため、多様なニーズに柔軟に対応できる新たな公共交通手段の検討を進め、地域全体で利用者の利用頻度向上、新規利用者の増加を目指す。
【二次評価】	・復興事業等による新しいまちの形・環境変化に対応すべく、公共交通ネットワーク構築に向けて、令和2年度改善事業として、乗降調査や運行事業者ヒアリングを行った上で、補助運行系統の見直しを検討し、その結果、令和2年12月16日に大槌町内に起点終点がある全運行系統の見直しを行っている。見直し後に運行する地域内フィーダー系統については、令和2年度同様、利用実態やニーズを把握するため、アンケート調査や運行事業者ヒアリング及び利用分析を行い、新型コロナウイルス感染症予防対策(安全に乗車が可能である周知含む)やバス停付近の店舗・施設紹介などの新たな利用促進対策を期待します。 ・今後の年間利用者数の目標値については、直近の利用実態の分析を行い検討願います。 ・利用実態等の現状分析を行い、方向性を整理し、持続可能な地域公共交通サービスを実現するため、次期公共交通計画の策定に反映していくことを期待します。				